

(別添3)

**【東吉野村】
校務DX計画**

本村の教育委員会及び学校において、教育DXを推進していく中で障害となる課題として、大きく2つ挙げられる。

第一に、クラウドツールを十分に活用できていないことや、FAXでのやり取りが残っていること、押印することが慣例になっている書類があることなど、校務の効率化・ペーパーレス化を阻害する要因が多く存在していることである。これについては、現在紙ベースで行っている、県教育委員会等からの通知や照会（県教育委員会から電子メールで村教育委員会に届いた通知等を各校分印刷し、配布している）について、積極的にGoogleドライブやGメール、電子メール等を活用し、ペーパーレス化を進め、学校においても校務の効率化に向けて取り組んでいく。

また、FAXでのやり取りを電子メール等に移行するように努めていく。

押印については、村の文書でも押印を要するものがあることや、村の規則で押印について定められているため、直ちに押印を廃止するという事は難しい。しかし、明確に定められてはいないが、慣例的に押印している文書については、村校園長会で議題に挙げていただくなど、見直しを行い、効率化に努めたい。

第二に、校務支援システム未導入のため、教職員の負担感があるということであるが、これについては、令和7年度に県域での導入が検討されている、ゼロトラスト型の統合型校務支援システムの導入について、情報を収集し検討を進めている段階である。

県より随時、情報の共有がなされるため、それらの情報を収集し、また、必要な情報については取りに行き、現場で動く教職員と協議を重ね進めていく。

また、現在、センター集約型で接続しているネットワークについても、ゼロトラスト型の校務支援システムの導入に併せて、在り方について検討していきたい。

教職員にとっての校務の効率化が結果的には児童生徒のよりよい学びに繋がることを踏まえ、望ましい校務の在り方を模索していく。